

漁業の概要

内房の南房総市富浦町では大型漁船による火光利用のさば・たもすくい網、さんま棒受網漁業が営まれています。本漁業で水揚げされる鮮度の良いサバ類は地元水産加工業者の加工原料や観光業で利用されており、地域にとって重要な漁業です。

冬から夏にかけては、さば漁業で、伊豆諸島近海で南下、北上するサバ類を狙って集魚灯と撒き餌を使用し、たもすくい網でサバ類を漁獲します。

夏から秋にかけては、さんま棒受網漁業に切替えて、道東・千島列島沖合から東北・常磐沖に南下するサンマを狙い、敷網の上に集魚灯で魚を集めて漁獲します。この時期は道東や三陸沖漁場近くの漁港での船上生活が基本となります。



サバの水揚げ

漁業収入モデル
(乗組員として新規就業時)

月 給	30万円+歩合
賞 与	—
備 考	試用期間は月給が異なる場合有り

※漁師.jp求人情報より引用

※年、資源状況等によって変動することがあります。

年間操業計画

漁業種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
さばたもすくい網等	←						→					
さんま棒受網								←				→

1日の操業スケジュール例

▼さばたもすくい網漁業等(1月～6月)

11:00～13:00	集合・出漁準備
13:00～	出港・漁場に向けて移動
日没～日の出	操業(交代で休憩)
8:00～11:00	帰港・水揚げ作業、解散又は出港

▼さんま棒受網漁業(8月～12月)

日中	出漁準備
夕方	出漁
夜間	操業
7:00頃	帰港、水揚げ

就業と漁労作業

大型漁船の航海士、機関士などの海技士資格を持つ船舶職員又は甲板員として従事することになります。夜間操業や長期航海など他の漁業と比較して体力、精神力ともに求められますが、その分他の漁業より給料等が高いのが特徴です。就業後は、技術と経験を積み、海技士資格を取得して漁労長や機関長等の幹部職員を目指すことになります。

漁労作業は船長や機関長を除いて全身体制で行います。

さばたもすくい網では、集魚灯や撒餌をしながら竿釣りや魚群を水面まで浮き上がらせ、魚群が水面下に密集したら撒餌をしながらたも網でサバをすくい獲ります。

さんま棒受網漁業では、集魚灯を操作して魚群を敷網上に誘導し、魚取部に貯まったサンマをフィッシュポンプで魚槽に水揚げします。